



溝端 甚一郎 議員

地域審議会を今後のまちづくりにご活用かすのか

地域審議会

8年間の検証

【問】市長として8年間の総括は。

【答】8年間の実績について評価、検証した中では、地域の課題を総合的に審議、協議する場として効果があつた。地域は地域で良くしていくのだという活動の中心となって、今日の地域振興に大きな役割を果たしていた。

一方で、その活動がその地域にお住いのいろいろな幅広い方々のところまで、十分には伝わっていなかったのではという課題を残している状況もある。ただ、地域審議会の皆様方が、自分の仕事を犠牲にしながら本当

に一生懸命に活動していただいたことに対し、敬意と感謝を申し上げます。

【問】地域審議会の検証結果を、新しいまちづくりとなる「協働のまちづくり」にどのように活かすのか。

【答】協働のまちづくりでは、全市域において、地域審議会に代わる地域の自主運営組織としての活動を目指している。

この地域審議会8年間の活動における出来事、課題、成果は高山全域のモデルとなつて、地域は地域の人達が自らの力で考え、行政と手と結び、新たな希望を見出していく活動の基になればと思う。ただ協働のまちづく

りというのは、形だけは出来るかもしれないが、その地域に根付いていくには時間がかかると思う。審議会のメンバー構成については、今までは団体の代表等、一括して同じレベルで進めてきたが、今度の協働のまちづくりについては、地域の方々が自らのような代表を選んで運営していくのか、幅の広い選択肢のある形で検討していきたい。

地域が生き生きと活発に活動していけるための行政としての支援は、今の地域審議会を参考にしながら、今後とも続けていきたい。



松本 紀史 議員

若者を引きつける「まちの魅力づくり」の仕掛けは行政の手腕による...

複合的な「まちの魅力づくり」の取り組みは

【問】若者の定住なくして高山の発展は望めない。定住促進に向け「まちの魅力づくり」をどう取り組むのか。

【答】事業者、関係団体、市民、有識者の意見を聴いて、現状をしっかりと把握し、まちの総合力を高めるために全庁的に取り組む。

【問】地元出身大学生等へのアンケート調査の実施状況と取り組みは。

【答】Uターン促進をより効果的にと、大学短大等中部地方の約600校に市内企業を紹介するチラシや冊子を送付している。また、大学生等約580人に事前調査をしている所だ。

若者定住策は重要な施策であり、ニーズを把握し、第八次総合計画においても積極的に位置づけていきたい。

少子化危機突破のための緊急対策

【問】国は、少子化危機突破のための緊急対策として「妊娠、出産等について」、女性、男性ともに「適切な時期に正確な情報提供を行う」など情報提供の充実を図ることとしているが、市は情報提供、啓発普及などについてどう取り組むのか。

【答】少子化対策の中で妊娠、出産に関する支援は重要なものと認識している。国、県の方針を注視しながら、より充実した取り組みを

したいと考えている。

健康寿命を延ばすために「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」にどう取り組むか

【問】40代から始まるという通称「ロコモ」予防は国も広めていくとしているが、市はどう広めていくのか。

【答】「ロコモ」予防の基本運動はバランス能力の訓練である。足腰の筋力訓練の代表的な「スクワット」は、家庭内で少しの時間でもできる運動として、保健事業など様々な場面で推奨していきたい。

